



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年1月27日

上場会社名 東邦チタニウム株式会社 上場取引所 東
 コード番号 5727 URL <https://www.toho-titanium.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山尾 康二
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部企画グループマネージャー (氏名) 留場 啓 TEL 045-394-5521
 四半期報告書提出予定日 2022年2月10日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	40,595	57.8	3,983	81.1	3,848	921.9	2,693	-
2021年3月期第3四半期	25,728	△23.5	2,199	△15.6	376	△84.5	△145	-

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 2,675百万円(-%) 2021年3月期第3四半期 △183百万円(-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	37.84	-
2021年3月期第3四半期	△2.04	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	93,516	46,117	49.2
2021年3月期	91,149	44,459	48.6

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 45,983百万円 2021年3月期 44,327百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	-	6.00	-	6.00	12.00
2022年3月期	-	6.00	-	-	-
2022年3月期(予想)	-	-	-	8.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	56,000	54.9	5,000	59.5	4,800	-	3,500	-	49.18

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期3Q	71,270,910株	2021年3月期	71,270,910株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	98,241株	2021年3月期	98,177株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期3Q	71,172,697株	2021年3月期3Q	71,172,893株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により低迷していた個人消費は感染第5波の収束後、持ち直しの動きが見られるものの依然として非製造業は厳しい状況に置かれています。一方、欧米等の先進国経済の回復や中国経済の底堅さによる輸出型製造業で持ち直しの動きも見られる等、業種間で違いが見られました。

当社を取り巻く足元の事業環境については、チタン需要の持ち直しや電子部品材料の需要拡大により各製品の販売が総じて堅調に推移している一方、原材料価格の高止まり、エネルギーコストの上昇、輸出輸送コストの大幅上昇等が収益を圧迫する要因となっているほか、国内外の感染症の再拡大による影響など製品需要の先行き不透明感も払拭できていません。

こうした中、当第3四半期連結累計期間における経営成績は、売上高405億95百万円(前年同期比57.8%増)、営業利益39億83百万円(同81.1%増)となりました。経常利益は38億48百万円(同921.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純損益は26億93百万円の利益(前年同期は1億45百万円の損失)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

金属チタン事業

当第3四半期連結累計期間における金属チタンの販売に関しては、航空機用途向けを主とするスポンジチタンの前年度から先送りされてきた製品引き取りを含む販売増等により、前年同期を上回る水準で推移しました。また、半導体用途向け高純度チタンの需要は引き続き堅調に推移しました。なお、当社チタン事業の需要動向を総体的に見ると、主力製品であるスポンジチタン需要に回復の兆しが見られ、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けサプライチェーン全体で生産活動が停滞した前年度の最悪期からは脱しつつあるものと推定されます。

しかしながら現状の収益面では、輸送費の高騰による販売費の増加、副資材単価の高騰等によりマージンは圧迫されております。

こうした状況のもと、同期間の金属チタン事業は、売上高は228億30百万円(前年同期比85.3%増)、営業利益は9億11百万円(同847.1%増)となりました。

触媒事業

当第3四半期連結累計期間における触媒の販売に関しては、輸送面では引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたものの、前年度末に販売予定であった製品の一部期ズレ計上の影響も有り、前年同期を上回る水準となりました。

こうした状況のもと、同期間の触媒事業は、売上高は58億35百万円(前年同期比11.0%増)、営業利益は24億2百万円(同16.1%増)となりました。

化学品事業

当第3四半期連結累計期間における化学品の販売に関しては、主要製品であるニッケル粉の主な用途である積層セラミックコンデンサー(MLCC)が、前年度前半のコロナ禍影響による需要減退から回復したことに加え、5G通信関連の需要増等により、前年同期を大幅に上回る水準となりました。

こうした状況のもと、同期間の化学品事業は、売上高は119億29百万円(前年同期比46.3%増)、営業利益は35億37百万円(同60.2%増)となりました。

セグメント別連結売上高

(単位：百万円)

区分	2022年3月期 第3四半期	2021年3月期 第3四半期	増減率
金属チタン事業	22,830	12,317	85.3%
触媒事業	5,835	5,254	11.0%
化学品事業	11,929	8,155	46.3%
合計	40,595	25,728	57.8%

セグメント別連結営業利益

(単位：百万円)

区分	2022年3月期 第3四半期	2021年3月期 第3四半期	増減率
金属チタン事業	911	96	847.1%
触媒事業	2,402	2,068	16.1%
化学品事業	3,537	2,207	60.2%
全社費用	△2,868	△2,173	—
合計	3,983	2,199	81.1%

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、売掛債権等及び有形固定資産の増加により、前連結会計年度末比23億66百万円増の935億16百万円となりました。

負債の部は、長期借入金の増加等により、前連結会計年度末比7億9百万円増の473億99百万円となりました。

純資産の部は、利益剰余金の増加により前連結会計年度末比16億57百万円増の461億17百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の48.6%から49.2%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、第3四半期連結累計期間における業績の進捗状況及び最近の経営環境等を踏まえ、2021年10月28日に公表いたしました通期の連結業績予想を修正致しました。詳細につきましては、本日(2022年1月27日)公表の「2022年3月期 通期連結業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

なお、連結業績予想は現時点で入手可能な情報に基づいておりますが、実際の数値は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,534	2,949
受取手形及び売掛金	7,132	8,133
電子記録債権	110	160
商品及び製品	18,670	15,955
仕掛品	5,069	6,988
原材料及び貯蔵品	8,870	10,583
未収入金	2,151	871
その他	567	476
流動資産合計	45,106	46,118
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	11,942	13,721
機械装置及び運搬具（純額）	16,849	19,696
工具、器具及び備品（純額）	261	254
土地	2,219	2,219
リース資産（純額）	2,411	2,175
建設仮勘定	8,146	5,628
有形固定資産合計	41,830	43,695
無形固定資産		
ソフトウェア	141	1,112
ソフトウェア仮勘定	1,144	190
その他	37	32
無形固定資産合計	1,323	1,335
投資その他の資産		
投資有価証券	6	6
関係会社株式	187	192
繰延税金資産	2,065	1,526
退職給付に係る資産	359	374
その他	272	268
貸倒引当金	△1	△1
投資その他の資産合計	2,889	2,366
固定資産合計	46,042	47,397
資産合計	91,149	93,516

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,214	4,282
短期借入金	20,271	17,826
リース債務	468	460
未払法人税等	352	275
賞与引当金	567	661
役員賞与引当金	-	88
その他	3,004	2,475
流動負債合計	26,878	26,071
固定負債		
長期借入金	16,352	17,871
リース債務	2,276	1,930
資産除去債務	1,183	1,525
固定負債合計	19,811	21,327
負債合計	46,690	47,399
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,963	11,963
資本剰余金	13,022	13,022
利益剰余金	19,710	21,386
自己株式	△77	△77
株主資本合計	44,619	46,295
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	7	2
為替換算調整勘定	△452	△444
退職給付に係る調整累計額	151	130
その他の包括利益累計額合計	△292	△311
非支配株主持分	132	133
純資産合計	44,459	46,117
負債純資産合計	91,149	93,516

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	25,728	40,595
売上原価	19,316	30,605
売上総利益	6,411	9,989
販売費及び一般管理費	4,211	6,006
営業利益	2,199	3,983
営業外収益		
物品売却益	13	23
持分法による投資利益	-	6
その他	68	19
営業外収益合計	81	50
営業外費用		
支払利息	122	133
持分法による投資損失	1,598	-
為替差損	135	14
支払補償費	3	33
その他	43	3
営業外費用合計	1,904	184
経常利益	376	3,848
特別利益		
固定資産売却益	79	1
特別利益合計	79	1
特別損失		
固定資産除却損	36	66
特別損失合計	36	66
税金等調整前四半期純利益	419	3,784
法人税、住民税及び事業税	103	503
法人税等調整額	463	586
法人税等合計	566	1,089
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△147	2,694
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△2	1
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△145	2,693

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△147	2,694
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	△5	△5
為替換算調整勘定	0	7
退職給付に係る調整額	24	△21
持分法適用会社に対する持分相当額	△55	-
その他の包括利益合計	△36	△19
四半期包括利益	△183	2,675
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△181	2,673
非支配株主に係る四半期包括利益	△2	1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、顧客との契約における対価に変動対価が含まれている場合には、変動対価の額に関する不確実性が事後的に解消される際に、解消される時点までに計上された収益の著しい減額が発生しない可能性が高い部分に限り、変動対価を取引価格に含めております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は204百万円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益も同額増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は163百万円減少しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	金属チタン 事業	触媒事業	化学品事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,317	5,254	8,155	25,728	—	25,728
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,033	—	1	1,035	△1,035	—
計	13,351	5,254	8,156	26,763	△1,035	25,728
セグメント利益	96	2,068	2,207	4,372	△2,173	2,199

(注) 1. セグメント利益の調整額△2,173百万円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	金属チタン 事業	触媒事業	化学品事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	22,830	5,835	11,929	40,595	—	40,595
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,473	—	4	1,477	△1,477	—
計	24,304	5,835	11,933	42,073	△1,477	40,595
セグメント利益	911	2,402	3,537	6,851	△2,868	3,983

(注) 1. セグメント利益の調整額△2,868百万円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。